

当院における Cypher stent と TAXUS stent の再狭窄に関する検討

¹昭和大学横浜市北部病院

佐藤 聖和¹、寺島 敏晃¹、吉澤 恵子¹、染谷 忠道¹、山二 綾子¹、林 嘉仁¹、森本 嘉純¹、宮島 真悟¹、大石 竜¹、佐藤 宜伯¹

【目的】 Drug Eluting Stent (DES) の出現により再狭窄率が以前より低下したが、DES 留置後再狭窄を僅かに認めることも現実にあった。今回 Cypher stent (Cypher) と TAXUS stent (TAXUS) 留置後の再狭窄例の発生について検討した。【対象】 DES 植込み患者 1137 名 (Cypher654 名、TAXUS483 名) 中、再狭窄を発生した 61 名を対象とした。再狭窄を起こした患者の内訳は男性 45 名、女性 16 名、平均年齢 66.2±9.6 歳、疾患は EAP36 名、OMI 10 名、UAP6 名、その他 9 名である。【方法】 高血圧、高脂血症、糖尿病、喫煙、肥満の 5 項目をスコア化し Cypher と TAXUS の再狭窄率と狭窄部位の比較を検討した。【結果】 既往スコアで Cypher は平均 2.56 点、TAXUS は 2.36 点であった。再狭窄率は Cypher 5.2%、TAXUS5.6%だった。狭窄部位別では共に左前下行枝に多く見られた。又、男女差では女性 1 に対し男性は Cypher2.4、TAXUS3.5 と共に女性より男性の方が多い傾向を示した。【結語】 Cypher と TAXUS で再狭窄率に大きな差は認められなかった。再狭窄を起こしやすい要因としては既往の重複、血管分岐部、血管径の細さが関係していると思われた。